

<会員による自著紹介>

「ドラキュラ」からブンガク  
—血、のみならず、口のすべて—

武藤浩史

慶應義塾大学

慶應義塾大学教養研究センター

(2006年発行)

定価 700円 (+税)



本書は慶應義塾大学教養研究センター選書として上梓された。同選書は、研究と教育の実り豊かな接続・連携を目指して、最先端の研究成果を簡潔かつ啓蒙的な語り口で伝える試みである。過去4冊、生きがよく親しみやすい文体で、さまざまな知の世界に新たに踏み込む人々への格好の入門書として、好評を博している。2006年に出版された本書は、大学新入生を主な対象として、有名なホラー小説『ドラキュラ』を題材に、文学作品の読み方を平易に解説し、文学の勉強が、真理、五感、物語、歴史、メディア、セクシュアリティなど多彩な問題を考える糸口を与えることを示した。難解になりがちな文学研究の面白さを、分かりやすく伝えることを試みている。

第1章「真理と物語」では、真理と物語の大切さを述べ、科学的真理や表面的真理と比して、言語の矛盾する細部に現れる人間の本音に当たる部分をフロイト的真理と名づけて、その意義を説いた。第2章「表の真理、口を通して裏の世界へ」では、この小説が、表面的真理のレベルにおいては、東国の怪物を撃退する大英帝国の強さを讃え、異性愛を表現し、現代女性を批判する物語でありながら、フロイト的真理に目を向けると、作中描かれる口を通して行う行為(吸血や音声録音など)に注目することで、アイルランド人の作者による英国批判や異性愛制度批判などの裏メッセージ(=本音)が読み取れることを示した。第3章「セクシュアリティ」では、人は誕生時から性的な存在であるという精神分析的観点から、母の乳を吸う口の官能性を通してセクシュアリティを研究することの意義を明らかにし、異性愛制度や性器中心主義に囚われることを拒否する広い視野の大切さを説いた。また、セクシュアリティに注目しながら小説をよく読むと、実は英国男性が吸血されていたり、ドラキュラが最後に死なないことが分かれると指摘した。そして、第4章「西と東の政治的裏表—音声情報戦、そしてアイルランド大飢饉」では、作品の中に、実は歴史上の惨劇となったアイルランド大飢饉が表現されていることを示した。このように、一冊の小説を精読することで、読解力から歴史の知識に至る、大学生に必要な様々な知識・思考力が育成されることが分かる。さらに勉強したい学生のために、最後に詳しい文献案内を付した。